

# 左 京 医 報

2024— 9

LIX— 5 (701)



『 瑠 璃 光 院 』

葵1班 藤原正隆先生



# 目 次

2024年9月号（701号） 題字 平 澤 興 先生

表紙写真・文章 .....	葵1班 藤原正隆 .....	1
理事会記録 .....		3
左京医師会 講演会等の予定 .....		12
随 筆		
「疏水の水音でフィナーレを迎えた幕末維新の京都交響曲」 第十二話「第三高等中学校を京都へ移転させたのは 北垣国道の腹芸だった？」（その2）	山下敬司 .....	13
「七仏七界」 西国四十九薬師霊場巡りの旅 その参 後編「師界」 .....	松下匡孝 .....	23
「京の和菓子のことなど」 .....	渡邊和朗 .....	27
編集後記 .....	兵庫美砂子 .....	33

左京医報 表紙募集!!

会員の皆様の写真や絵画などを募集しています。  
左京医師会事務局までご連絡ください。

## 表紙のことば

### 『 瑠 璃 光 院 』

葵1班 藤原正隆

昨秋、八瀬瑠璃光院の夜間特別拝観に行ってきたときの写真です。

瑠璃光院と言えば、黒塗りの机の天板に美しく反射したもみじですが、特に夜間はライトアップされ、まるで幽玄の世界に迷い込んだような錯覚に陥ります。（机の上にカメラを置いて撮影しています。）

Nikon Z8 + NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S  
FL 32mm, f/2.8, SS 1/60sec, ISO 8000, 露出補正なし。

# 一般社団法人左京医師会令和6年度第6回定例理事会

日 時：令和6年6月28日（金）

場 所：国立京都国際会館

出席者：塩見・松下・十倉・藤田・三嶋・西村・細谷・山下・青木・原山・佐藤  
吉川（Web参加）・早野・児玉・平竹・兵庫・松本・松木・八田・市田  
伊地智監事・米田監事

## I. 報 告

### 1. 会長報告

- 1) 6月15日（土） 京都府医師会第212回定時代議員会 於：京都府医師会館
- 2) その他  
来訪, 会合, 他
- 1) 7月2日（火） 左京区民対話会議 18時 於：左京区役所
- 2) 7月17日（水） 令和6年度第1回京都市保健所運営協議会  
13時30分 於：京都府医師会館
- 3) 7月28日（日） 京都府保険医協会第207回定時代議員会（ハイブリッド開催）  
14時 於：ホテルグランヴィア京都
- 4) 8月31日（土） 参与会（京都府医師会） 16時 於：京都 Brighton ホテル
- 5) その他

### 2. 庶 務

- 1) 6月26日（水） 第3回地区庶務担当理事連絡協議会（ハイブリッド開催）  
於：京都府医師会館
- 2) その他

### 3. 地域医療

- 1) 6月18日（火） さきょう認知症にやさしい地域づくり部会  
赤木美砂先生、西村伊三男先生 於：左京区役所
- 2) 6月22日（土） 岩倉地域包括支援センターとの交流会  
出席 医師；9名 包括・介護関係；42名  
於：岩倉地域包括支援センター
- 3) 6月24日（月） 左京区地域ケア連絡協議会・運営協議会  
塩見聡史先生、松下匡孝先生 於：左京区役所
- 4) 6月26日（水） 左京区民ふれあい事業実行委員会「区民まつり部会」  
松下匡孝先生 於：左京区役所

- 5) 7月13日(土) 京都市北部エリア 脳卒中地域連携の会  
三嶋隆之先生、児玉直俊先生  
14時 於：京都大学医薬研究棟藤多記念ホール
- 6) 7月13日(土) 区民公開講座  
「総合診療医からみた、健康に暮らすヒントを教えます！第2弾」  
大阪医科薬科大学総合医学研究センター医療統計室 講師  
南丹市国民健康保険美山林健センター診療所 所長  
西岡大輔先生  
14時 於：京都府立京都学・歴彩館
- 7) 7月27日(土) 令和6年度第1回在宅医療戦略会議(ハイブリッド開催)  
塩見聡史先生、松下匡孝先生  
14時 於：京都府医師会館
- 8) 8月25日(日) 令和6年度京都府医師会災害医療コーディネーター研修会  
青木信裕先生  
8時30分～18時30分 於：京都府医師会館
- 9) 10月19日(土) 第33回左京医師会認知症研究会  
「新規認知症疾患修飾薬について(仮)」  
京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野  
教授 木下彩栄先生  
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 10) 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
- 11) その他

#### 4. 情報広報

- 1) 7月1日(月) 情報広報委員会(Web開催)
- 2) 医報
- 3) その他

#### 5. 学 術

- 1) 6月15日(土) 「脱水症・熱中症対策」  
京都橘大学 客員教授 西本泰久先生  
出席；24名 於：ウェスティン都ホテル京都
- 2) 9月21日(土) 「乳幼児難聴の早期発見から難聴高齢者の認知症対策まで」  
京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 山崎博司先生  
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 3) 10月19日(土) 「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」  
京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生

16時 於：ウェスティン都ホテル京都

4) 11月16日(土) 「コモンな皮膚疾患の診断と治療」

京都府立医科大学北部キャンパス長 加藤則人先生

14時30分

於：青蓮会館

## 6. 社 保

## 7. 福 祉

1) 7月20日(土) 文化講演会・納涼会 17時 於：ホテルオークラ京都  
「和歌に詠まれた四季」

冷泉家時雨亭文庫 冷泉貴実子氏

2) 9月14日(土) 緑壽会 17時 於：竹茂楼

## 8. 税 務

## 9. 会 計

1) 4月・5分子算管理月報・収支決算書推移表

## 10. そ の 他

## II. 議 事

1) さちこ女性クリニック(松ヶ崎班・A・清水幸子先生)診療時間変更届について

⇒承認

2) 文化講演会・納涼会の小学生未満の参加可否について

⇒承認

3) 分院開設について

⇒継続審議

4) その他

次回理事会：7月12日(金)

文責 八田、兎玉

### 個別相談の受付

一般社団法人左京医師会では、大谷会計事務所のご厚意により、税務・経営・資金等に関する無料個別相談を開催しています。公認会計士、税理士が1回30分程度でご相談に応じますので、希望される会員は事務局までお申し出ください。相談曜日は、第2月曜日14時から16時までとなります。

ただし、相談内容に関して左京医師会は一切関与しませんので会員の自己責任でお願いいたします。

一般社団法人左京医師会

# 一般社団法人左京医師会令和6年度第7回定例理事会

日 時：令和6年7月12日（金）

場 所：国立京都国際会館

出席者：塩見・松下・十倉・藤田・三嶋・赤木・西村・細谷・山下・青木・原山・佐藤  
久保田・児玉・平竹・松本・松木・八田・市田・伊地智監事・米田監事

## I. 報 告

### 1. 会長報告

1) 7月4日（木） 越智京子先生（下鴨班・C'）がお亡くなりになりました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

2) 7月2日（火） 左京区民対話会議 於：左京区役所

3) その他

来訪、会合、他

1) 7月17日（水） 令和6年度第1回京都市保健所運営協議会  
13時30分 於：京都府医師会館

2) 7月28日（日） 京都府保険医協会第207回定時代議員会（ハイブリッド開催）  
14時 於：ホテルグランヴィア京都

3) 8月31日（土） 参与会（京都府医師会） 16時 於：京都 Brighton ホテル

4) その他

### 2. 庶 務

1) 7月24日（水） 第4回地区庶務担当理事連絡協議会（ハイブリッド開催）  
14時30分 於：京都府医師会館

2) その他

### 3. 地域医療

1) 7月5日（金） 災害対策部会（ハイブリッド開催）  
出席；11名 於：国立京都国際会館

2) 7月10日（水） 左京区事業者連絡協議会代表者会（Web開催）  
塩見聡史先生、松下匡孝先生、原山拓也先生 於：左京区役所

3) 7月13日（土） 京都市北部エリア 脳卒中地域連携の会  
三嶋隆之先生、児玉直俊先生  
14時 於：京都大学医薬研究棟藤多記念ホール

4) 7月13日（土） 区民公開講座  
「総合診療医からみた、健康に暮らすヒントを教えます！第2弾」

大阪医科薬科大学総合医学研究センター医療統計室 講師  
南丹市国民健康保険美山林健センター診療所 所長  
西岡大輔先生

- 14時 於：京都府立京都学・歴彩館
- 5) 7月27日(土) 令和6年度第1回在宅医療戦略会議(ハイブリッド開催)  
塩見聡史先生、松下匡孝先生、原山拓也先生、松本早苗先生  
14時 於：京都府医師会館
- 6) 7月29日(月) 令和6年度「左京区要保護児童対策地域協議会代表者会議」  
兼「左京区子育て支援調整会議代表者会議」  
平竹晋也先生  
13時 於：左京区役所
- 7) 8月5日(月) 令和6年度第1回認知症総合支援事業アドバイザーボード  
西村伊三男先生  
17時30分(Web開催)
- 8) 8月25日(日) 令和6年度京都府医師会災害医療コーディネート研修会  
青木信裕先生  
8時30分～18時30分 於：京都府医師会館
- 9) 10月19日(土) 第33回左京医師会認知症研究会  
「新規認知症疾患修飾薬について(仮)」  
京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野  
教授 木下彩栄先生  
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 10) 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター  
11) その他

#### 4. 情報広報

- 1) 7月1日(月) 情報広報委員会(Web開催)  
出席;10名
- 2) 医報
- 3) その他

#### 5. 学 術

- 1) 9月21日(土) 「乳幼児難聴の早期発見から難聴高齢者の認知症対策まで」  
京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 山崎博司先生  
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 2) 10月19日(土) 「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」  
京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生

- 16時 於：ウェスティン都ホテル京都  
3) 11月16日(土) 「コモンな皮膚疾患の診断と治療」  
京都府立医科大学北部キャンパス長 加藤則人先生  
14時30分 於：青蓮会館

## 6. 社 保

## 7. 福 祉

- 1) 7月20日(土) 文化講演会・納涼会 17時 於：ホテルオークラ京都  
「和歌に詠まれた四季」  
冷泉家時雨亭文庫 冷泉貴実子氏  
2) 9月14日(土) 緑壽会 17時 於：竹茂楼

## 8. 税 務

## 9. 会 計

## 10. そ の 他

## II. 議 事

- 1) 分院開設について ⇒承認  
2) 有馬医院(北白川1班)管理者交代について ⇒継続審議  
3) 京都府医師会執行部と地区医師会との懇談会について  
開催希望日時(第3希望まで)・場所  
テーマ・要旨 ⇒承認  
4) 左京ふれあいまつりについて ⇒承認  
5) 「2024年度(第6回)京大病院地域連携の集い」の後援について ⇒承認  
6) その他

次回理事会：7月26日(金)  
ハイブリッド開催  
文責：松木、佐藤

# 一般社団法人左京医師会令和6年度第8回定例理事会

日 時：令和6年7月26日（金）

場 所：国立京都国際会館

出席者：塩見・松下・十倉・藤田（Web参加）・三嶋・赤木・西村（Web参加）・細谷  
山下・青木（Web参加）・原山（Web参加）・佐藤（Web参加）  
吉川（Web参加）・早野・久保田・平竹（Web参加）・兵庫（Web参加）・松本  
松木・八田・市田（Web参加）・伊地智監事（Web参加）・米田監事（Web参加）

## I. 報 告

### 1. 会長報告

- 1) 7月17日（水） 令和6年度第1回京都市保健所運営協議会 於：京都府医師会館
- 2) 7月17日（水） 裁定審議委員補欠選挙告示
- 3) その他

来訪、会合、他

- 1) 7月28日（日） 京都府保険医協会第207回定時代議員会（ハイブリッド開催）  
14時 於：ホテルグランヴィア京都
- 2) 8月1日（木）～8月7日（水） 京都府医師会選挙人名簿縦覧
- 3) 8月29日（木） 令和6年度京都上地域産業保健センター第1回運営協議会  
14時 於：京都府医師会館
- 4) 8月31日（土） 参与会（京都府医師会） 16時 於：京都ブライトンホテル
- 5) 9月14日（土） 地区医師会長と保険医協会との懇談会（ハイブリッド開催）  
14時30分 於：京都府保健医協会
- 6) 12月1日（日） 2024年度（第6回）京大病院地域連携の集い  
15時 於：芝蘭会館
- 7) その他

### 2. 庶 務

- 1) 7月24日（水） 第4回地区庶務担当理事連絡協議会（ハイブリッド開催）  
於：京都府医師会館
- 2) その他

### 3. 地域医療

- 1) 7月13日（土） 京都市北部エリア 脳卒中地域連携の会  
三嶋隆之先生、児玉直俊先生  
於：京都大学医薬研究棟藤多記念ホール

- 2) 7月13日(土) 区民公開講座  
参加者;179名 於:京都府立京都学・歴彩館
- 3) 7月19日(金) 認知症部会(ハイブリッド開催)  
出席;15名 於:国立京都国際会館
- 4) 7月19日(金) 在宅医療部会(ハイブリッド開催)  
出席;12名 於:国立京都国際会館
- 5) 7月27日(土) 令和6年度第1回在宅医療戦略会議(ハイブリッド開催)  
塩見聡史先生、松下匡孝先生、原山拓也先生、松本早苗先生  
14時 於:京都府医師会館
- 6) 7月29日(月) 令和6年度「左京区要保護児童対策地域協議会代表者会議」  
兼「左京区子育て支援調整会議代表者会議」  
平竹晋也先生  
13時 於:左京区役所
- 7) 8月5日(月) 令和6年度第1回認知症総合支援事業アドバイザーボード  
西村伊三男先生  
17時30分(Web開催)
- 8) 8月25日(日) 令和6年度京都府医師会災害医療コーディネーター研修会  
青木信裕先生  
8時30分~18時30分 於:京都府医師会館
- 9) 10月19日(土) 第33回左京医師会認知症研究会  
「新規認知症疾患修飾薬について(仮)」  
京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野  
教授 木下彩栄先生  
14時30分 於:ウェスティン都ホテル京都
- 10) 11月4日(月・振休) 左京区民ふれあいまつり2024  
午前 青木信裕先生、八田 告先生  
(塩見聡史先生、松下匡孝先生)  
午後 細谷泰久先生、松本早苗先生  
(塩見聡史先生、松下匡孝先生)  
10時~15時 於:左京区役所
- 11) 京都市左京区在宅医療・介護連携支援センター
- 12) その他

#### 4. 情報広報

- 1) 10月7日(月) 情報広報委員会(Web開催)
- 2) 医報
- 3) その他

## 5. 学 術

- 1) 9月21日(土) 「乳幼児難聴の早期発見から難聴高齢者の認知症対策まで」  
京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 山崎博司先生  
14時30分 於：ウェスティン都ホテル京都
- 2) 10月19日(土) 「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」  
京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生  
16時 於：ウェスティン都ホテル京都
- 3) 11月16日(土) 「コモンな皮膚疾患の診断と治療」  
京都府立医科大学北部キャンパス長 加藤則人先生  
14時30分 於：青蓮会館

## 6. 社 保

## 7. 福 祉

- 1) 7月20日(土) 文化講演会・納涼会  
「和歌に詠まれた四季」  
冷泉家時雨亭文庫 冷泉貴実子氏  
出席；40名 於：ホテルオークラ京都
- 2) 9月14日(土) 緑壽会 17時 於：竹茂楼

## 8. 税 務

## 9. 会 計

## 10. そ の 他

## II. 議 事

- 1) 研修医等の会費に関する委員会の設置について ⇒承認
- 2) 裁定審議委員補欠選挙の投票・開票立会人について ⇒承認
- 3) 京都府保険医協会との懇談会について ⇒承認
- 4) その他

次回理事会：8月24日(土)

文責：八田、佐藤

## 左京医師会 講演会等の予定

(令和6年9月～11月)

開催日と場所は変更になる場合があります。  
開催時間など詳細が決まりましたら医報などにて告知致します。

### ◆左京学術講演会

と き 9月21日(土) 14時30分

ところ ウェスティン都ホテル京都

「乳幼児難聴の早期発見から難聴高齢者の認知症対策まで」

京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 山崎博司先生

### ◆第33回認知症研究会

と き 10月19日(土) 14時30分

ところ ウェスティン都ホテル京都

「新規認知症疾患修飾薬について(仮)」

京都大学人間健康科学系在宅医療・認知症学分野 教授 木下彩栄先生

### ◆左京学術講演会

と き 10月19日(土) 16時00分

ところ ウェスティン都ホテル京都

「呼吸器臨床症候・病歴から考える実地診療」

京都大学呼吸器内科 講師 佐藤篤靖先生

### ◆左京学術講演会

と き 11月16日(土) 14時30分

ところ 青蓮会館

「コモンな皮膚疾患の診断と治療」

京都府立医科大学 北部キャンパス長 加藤則人先生



## 「疏水の水音でフィナーレを迎えた幕末維新の京都交響曲」

### 第十二話 「第三高等中学校を京都へ移転させたのは

#### 北垣国道の腹芸だった？」（その2）

北白川2班 山下敬司

#### 【第三高等中学校は大阪の都心にあったが故に手狭となっても拡張できなかった】

第三高等中学校は大阪舎密局開設以来、江戸時代に大阪城の大手門の警備を担当してきた京橋口御定番屋敷跡にあり、校地は約12,000坪と手狭でした。校地のあった場所は現在の大阪府大阪市大手前3丁目付近で、大阪舎密局跡（＝第三高等中学校のかつての所在地）と記された記念碑が建立されています。その近くには大阪府庁や大阪府警察本部があり、江戸時代でも明治時代でも現在でも一等地です（図82、図83）。

明治21年（1888年）当時の地図を見ると、第三高等中学校の西側は市街地で、西側以外の四周には大阪鎮台の陸軍施設が立ち並んでいます。大阪鎮台は陸軍の重要な拠点で明治政府にとっての重要性は第三高等中学校を凌駕しており、校地拡張のために陸軍に立ち退いてもらうどころか、逆に立ち退きを求められかねない状況だったのではないのでしょうか。なお、この年から陸軍は鎮台制から師団制（東京・仙台・名古屋・大阪・広島・熊本・札幌に第1～第7師団を配置）に移行しており、大阪鎮台は第4師団となりました。



図82：大阪城付近の明治21年（1888年）の地図（大阪実測図、国際日本文化研究センター所蔵）と現在の市街図（国土地理院地図）で、第三高等中学校とその跡地の区画をそれぞれに太枠で示し、大阪舎密局跡と書かれた記念碑と遺構がある場所に○マークを筆者が付して適宜書込をした。第三

高等中学校は大阪城の大手門の至近にあり、広さ約12,000坪（尾張藩京都屋敷の約4分の1）の細長い変形敷地に校舎が建てられていた。当時は同校の西は市街地で、北・東・南側には陸軍の施設が建ち並んでいた。現在はその付近には大阪府庁と大阪府警本部があり、当時も今も大阪の一等地であるが、それ故に同校が手狭となった時に、現地で拡張することが困難となった。そのため同

校の移転問題が持ち上がることとなったが、大阪府内に適当な移転先が見つからず、移転経費の地元負担問題も容易に決着しなかったことが、同校の京都移転を密かに狙っていた北垣国道に幸運をもたらした。



図83：大阪舎密局跡の記念碑（大阪市建設局道路河川部道路課作成の史跡紹介記事から）とその北側にある大阪府の本庁舎。大阪舎密局がいかに都心の一等地にあったかがわかる。その建物は現存していないが、ホテル・ザ・ルーテルと大阪府警察本部の間の区画に当時の石垣と植栽などの舎密局の遺構が現状保存され、記念碑が建立されている。

この記念碑は昭和54年（1979年）に大阪府教育委員会と旧第三高等学校同窓会によって建立され、さらに平成12年（2000年）には日蘭交流400年の記念として、この横に新たにハラタマ像が建立された。このように舎密局跡に対する扱い方と史跡保存状況は、京都より大阪の方が断然丁重である。

明治13年（1880年）に折田彦市（当時31歳）が大阪専門学校（第三高等中学校の前身）の校長として着任して以降、施設整備や教育内容の充実に務めました。校地の狭さだけはいかんともしがたく、立地が大阪の一等地であるがゆえに隣接地への拡張もままならず、校地の移転が構想されるようになりました。移転先としては、地元の大阪府を含めて兵庫県や京都府の広い区画（その当時は京都では伏見の陸軍駐屯地付近が検討されたそうである）が候補地となっていたようで、初めから京都の尾張邸跡への移転ありきではなかったそうです。

京都での移転先として尾張藩京都屋敷跡が取り沙汰されるようになったのは、文部省の辻次官から北垣国道へ移転費10万円の京都府負担と用地確保を条件に京都への移転が打診されて以降のことです。尾張藩京都屋敷跡には京都府師範学校が建てられる予定だったそうですが、京都府立中学校を廃止し、師範学校はその廃止後に空いた校舎に設置することで、尾張藩京都屋敷跡を第三高等中学校が使えるようにしたそうです。そして廃止された京都府立中学校は東本願寺の好意で創立された中学校へ引き継がれたことは先に述べたとおりです。国道の捻りだした案は裏の裏までよく考えられており、その巧妙さには驚くばかりです。

尾張藩京都屋敷跡を他の移転候補地（仁和寺付近や因州鳥取藩邸跡）と比較すると、尾張藩京都屋敷跡は、既存の石垣で囲まれた広大な正方形の平坦地であること、洛中から近いこと、京都駅もさほど遠くないこと、琵琶湖疏水完成後にその恩恵が受けられる地域であることが利点として挙げられます。吉田山の山麓なので「井戸水の水質が良かった」のも理由かもしれませんが、筆者はその立地と地形と広さが選ばれた理由であったと考えています。

### 【第三高等中学校は、大阪都心の一等地から京都鴨東の僻地へ移転した！】

第三高等中学校が移転した京都吉田二本松地区は鴨東地区の北部にあり、49,000坪の尾張藩京都屋敷跡があったものの、人家もまばらな僻地でした。移転当時は琵琶湖疏水も未完成で、その僻地度にはさらに磨きがかかっていたことでしょう。このように大阪城大手門前の大阪都心部から京都吉田二本松の僻地へ移転してきた学生にとっては、天国と地獄と言ってもよいくらいの環境の差がありました。そして彼らは自然豊かな吉田山の西麓で、学生の自主性を重んじる折田彦市校長の下でのびのびと育っていきました。

なお、第三高等中学校が移転してきた時には京都市民は大歓迎をして出迎え、お祭り騒ぎだったそうです。第三高等中学校生は「都心の優等生」から一転して「荒野の英雄」となった訳で、田んぼの中の一軒家に近い田舎とはいえ、居心地は決して悪くなかったのではないかと思います。そして田舎道を颯爽と歩く彼らの姿は、当時の人々の目に鮮烈に焼き付いたのではないのでしょうか。

今年の節分祭の頃のようですが、当時と変わらない吉田神社の門前を歩いていた高校生の集団が当地を闊歩する第三高等中学校の学生達に見えたのは、幻だったのか単なる錯覚だったのか、筆者には今もってわかりせん。

### 【第三高等中学校を大阪から京都へ移転させたのは北垣国道の腹芸だった？】

第三高等中学校の移転問題が暗礁に乗り上げつつあったその時に、京都府の北垣国道知事へ文部省が「移転費用として10万円を京都府で拠出し適地を斡旋するなら京都へ第三高等中学校を移転してよい」と提示し、国道がそれに飛び乗り、京都府会が10万円拠出案を承認したことから、第三高等中学校の京都移転が明治19年（1886年）11月30日に決まりました。

そもそも高等中学校の整備と再編が文部省で決まったのは明治19年（1886年）4月であり、それから京都移転の話が文部省と京都府でまとまるまで僅か半年で、それも京都府会の10万円支出案の可決後わずか10日後の官報告示で決まるという電光石火の早業であり、蚊帳の外に置かれた大阪府にとってはまさに青天の霹靂であったと思われます（文部省から国道への移転案が提示された時からならば決定までは数ヶ月だったと思われる）。

当然、事前折衝を含め、文部省と京都府の間には秘密交渉もあったと思われ、安藤精軒がその橋渡しをしたのではないかと先に書きましたが、精軒は国道の密命を帯びて文部省へ行ったのかもしれないと筆者は想像しています。そして京都府会への迅速な根回しや文部省や内務省との手に汗を握るやりとりを含めて、この交渉は北垣国道ならではの腹芸だったと筆者は考えています。

### 【第三高等中学校が京都に移転したその年に文部大臣・森 有礼が暗殺された】

第三高等中学校の京都移転が決まった3年後の明治22年（1889年）9月に第三高等中学校が京都・吉田（現・京都大学本部構内）へ移転しますが、文部大臣・森 有礼はその年の2月に国粹主義者の西野文太郎に暗殺されました（享年43歳）。このため、森は移転記念式典には出席できず、森の後任で第二代文部大臣となった榎本武揚が祝辞を寄せています。

森は開明主義者で斬新かつ革新的な文部行政を展開しており、それを快く思わない者たちからは反感を買っていました。そのため森の死去により文部行政には一部で揺り戻しが起こっており、暗殺が京都移転決定前であったならば、第三高等中学校の京都移転は棚上げか中止になったのではと筆者は考えています。

このように第三高等中学校の京都移転は棚からぼた餅的に始まった後は、決定までは綱渡りの連続だったと言えます。国道は学校用地として尾張藩京都屋敷跡を捻りだし、京都府会での予算措置の可決を急ぎ、移転決定まで猛スピードで駆け抜けますが、あいまいなまま時間が経過すれば元の本阿弥に戻ってしまいかねないことを意識していたのだと思います。

国道はここぞという時には用意周到に根回しを行い、外堀が埋まった後はブルドーザーのように進んでいきますが、それゆえ実現できた京都移転であったと筆者は考えています。

### 【第三高等中学校の京都移転に際して、その校地提供が容易にできた理由とは？】

お金を用意できても、広い校地を学校にふさわしい場所に用意できなければ、第三高等中学校の誘致は困難となります。そもそも、大阪の校地では狭すぎるのが移転の大きな理由でした。国道は尾張藩京都屋敷の広大な敷地を第三中学校の校地として用意しますが、そのような広大な用地が確保できたのはなぜなのでしょう？

次の項目では幕末から第三高等中学校の移転の頃までの鴨東地区の変遷を辿ってみたいと思います。

### 【文久年間の鴨東地区は、一部を除いて人家もまばらな僻地だった？】

それでは、今度は文久3年（1863年）に発行された文久改正新增細見京絵図大全の鴨東地区（当時は山城国愛宕郡で今は京都市左京区）を拡大したものをお示しします（図84）。当時の京都市左京区は正確には京都・洛中ではなく、山城国愛宕郡に属する田中村・修学院村・白川村などの村落で、若狭街道や滋賀越街道などの街道が通り、吉田神社や聖護院や知恩寺などの寺社が点在しましたが、人家は少なく田畑や林が広がっていました。

当時は大名屋敷はまだ少ないですが、紀伊藩屋敷と越前藩屋敷と阿波藩屋敷と南部藩屋敷が既にあります。文久2年（1862年）の文久改革に際して島津久光が率兵上洛するまでは各藩の藩士が大挙して上洛し京都に滞在することはなく、また各藩が京都洛中に藩邸を

構えることは幕府から禁止されていました（特に外様大名には規制が厳しかったが藩邸ではなく蔵屋敷や藩士のための宿泊施設ならばある程度は許容された）。しかし、この頃から京都が政治の中心となってきたため、鴨東地区にも藩邸（大名屋敷）が次第に増えてきました。

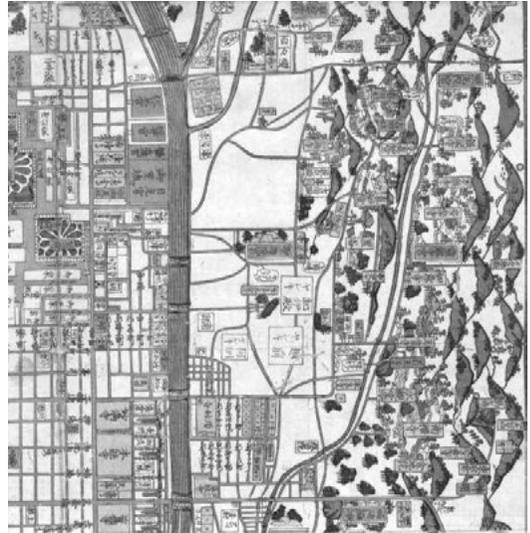


図84：文久3年（1863年）に発行された文久改正新增細見京絵図大全の鴨東地区（京都市左京区中心部）付近を拡大したもの（原図は国立国会図書館デジタルアーカイブから）。当時の鴨東地区は洛外の愛宕郡の一部であり、東海道と若狭街道と滋賀越街道と寺社といくつかの大名屋敷が点在しているが、その大半は田畑と山林であった。

**【鳥羽伏見の戦いの直前には、鴨川東岸は多くの大名屋敷で溢れていた？】**

ここで皆様に改めて明治2年の京都市地図の鴨東地区の大名屋敷の配置を見て頂きます（図77）。

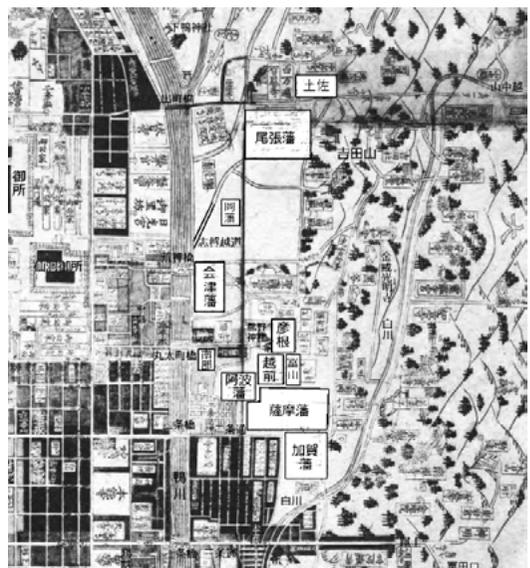


図77：明治2年の京都市地図（京都市史・地図編に収載、国立国会図書館デジタルコレクションから）の鴨川東岸部（京都市左京区の南部）に原田良子氏と新出高久氏の共同作成による「幕末に鴨川以東に急造された諸藩屋敷位置推定図」を参考に筆者が大名屋敷を書き込んだもの。最も大きいものは原田良子氏と伊東宗裕氏の共同研究でその場所と広さ（約55,000坪）が特定された薩摩藩岡崎屋敷で、現在の岡崎公園の二条通以北と平安神宮の南側部分に相当する。なお、山本覚馬が幽閉され、現在の同志社大学の本学がある元薩摩藩二本松藩邸とは全く別物である。次いで大きいのは49,000坪の尾張藩京屋敷で現在は京都大学本部構内となっている。

鴨東地区では、文久3年（1863年）の文久改正新增細見京絵図大全より大名屋敷が激増していることがわかります。文久の改革以降は将軍や幕府関係者や諸藩の藩士・藩兵や浪人が京都に集まるようになり、洛中の既存の施設だけでは場所が足りなくなります。

そのため、洛中とは鴨川を隔てただけであり、かつ田舎で土地がふんだんにあった鴨東地区に多くの大名屋敷が作られました。そのなかでも目立つのは、吉田地区から聖護院地区の尾張藩屋敷と会津藩屋敷そして岡崎地区の薩摩藩屋敷と加賀藩屋敷でした。

### 【尾張藩京都屋敷は、吉田神社の門前に志賀越街道をぶった切って作られた？】

吉田地区の尾張藩京都屋敷は約49,000坪の敷地を擁し、滋賀越街道を分断して吉田山の西麓にある吉田神社の門前に作られました。当時の滋賀越街道は、吉田地区では今出川通にその役割を譲りつつありましたが、街道をぶった切って屋敷を作るとは、さすがは御三家のご威光です。そしてぶった切られた滋賀越街道の代わりに屋敷の東側と南側に迂回路が作られ、南側の迂回路が現在の東一条通です。

### 【東京奠都から10年以上経過すると、鴨川東岸は再び僻地と化した】

明治維新後の慶応4年/明治元年（1868年）に東京奠都となると京都は政治の中心ではなくなり、幕末に諸藩が洛中や左京区などの洛外に多数構えていた藩邸の存在価値は全くなりませんでした。その維持費も嵩むことから各藩邸の多くが放置され荒れるに任されました。例外的に、薩摩藩二本松藩邸（同志社大学今出川キャンパスの3分の2の広さで約14,000坪）は500円で山本覚馬へ譲渡され（仲立ちをしたのは西郷隆盛とされる）、さらに覚馬から新島 襄へ同額で譲渡され、同志社英学校の校地となりました。

荒れるに任される各藩の京都藩邸を見て京都府は新政府へ働きかけ、新政府から藩邸跡地の有効利用や民間への売却を進めるように各藩へ通達されますが、なかなか徹底されませんでした。そして明治4年（1871年）に廃藩置県で藩が消滅すると、各藩の京屋敷もお城や藩の支配地と共に新政府へ上納され、屋敷は取り壊されたり、民間へ譲渡されたりしていきます。

洛中では払い下げられた屋敷跡へ建物が建てられていきますが、左京区の名屋敷は、ほとんどが空き地や田畑となっていきました。首都が東京へ遷都される以前は35万人あった京都の旧市街地（現在の上記区と中京区と下京区）の人口は、遷都後にはその約3分の2まで激減したそうです。

### 【琵琶湖疏水の完成を見据えて、国道は鴨東地区を京都市へ編入した】

現在は京都市左京区の南部地区となっている鴨東地区は当時は愛宕郡に区分され、当初は京都市ではありませんでした。しかし北垣国道は「京都市（当時は上記区と下京区のみ）」

の負担で建設される琵琶湖疏水の恩恵を最も受けるのが愛宕郡というのは不合理だ」として、明治21年（1888年）に愛宕郡の吉田村・岡崎村・聖護院村・浄土寺村・鹿ヶ谷村・南禅寺村を京都市上京区へ、愛宕郡の粟田口村・今熊野村・清閑寺村を京都市下京区にそれぞれ合併させます。そして現在は京都市左京区となり、文化・教育ゾーンとその背後の住宅地域として発展して現在へ至っています。

### 【尾張藩京都屋敷跡へ第三高等中学校が引っ越してきた！】

京都府師範学校の建設予定地だった49,000坪の広大な尾張藩京都屋敷跡が、京都府立中学校を廃止し師範学校をその校舎へ移転させることで第三高等中学校の敷地として提供されました。第三高等中学校の移転費用は校地の買収費用や校舎の建設費用などを含めて総額162,500円であったそうで、その内の10万円を京都府が負担しました。そして、自然豊かな吉田山の西麓に広がる校地は、第三高等中学校の学生たちに、自然豊かな静かな環境なのに洛中へも近いという理想的な学習環境をもたらしました（図85）。



図85：京都地図1889年版（国際日本文化研究センター所蔵）。大名屋敷はほとんどが空き地や田畑に戻されていたが、尾張藩京都屋敷の跡地に第三高等中学校が新築され、大阪から移転してきた。これがきっかけとなり、鴨川東岸は関西屈指の文教地区へと変貌していく。

### 【大名屋敷あつての京都大学？】

第三高等中学校は京都へ移転後に第三高等学校となり、それを下地として明治30年（1897年）に京都帝国大学が誕生します。それに際して京都府は、東大路の一条通の南側から近衛通にかけての土地（現在の吉田南構内）を買収し、第三高等学校の移転先として提供し、第三高等学校はそこへ移転しました。そして第三高等学校があった尾張藩屋敷跡に京都帝国大学が創立され、当初は第三高等学校の建物がそのまま利用されたそうです。さらに京都府は、医科大学用地として現在の医学部及び病院所在地も買収して医科大学へ

提供し、その後の京都帝国大学の拡張を陰で支えました。

現在の京都大学の配置を見ると、尾張藩屋敷跡ばかりではなく、当時のいろんな大名の屋敷跡に大学施設があることがよくわかります。京都大学は、尾張藩屋敷跡以外にも付近にふんだんにあった大名屋敷跡（その多くは田畑や未利用地となっていた）を京都府が買収して帝国大学へ提供して、開学後も順調に拡張を続けていったのですね（図86）。鴨東地区に多くの大名屋敷跡があったからこそこの京都大学だと筆者は密かに思っています。



図86：京大吉田キャンパスの配置マップ（京都大学のホームページから転載）と旧大名屋敷跡との関係を筆者が書き込んだもの。図77と見比べて頂くと、北から順に、北部構内は旧土佐藩屋敷に、本部構内は旧尾張藩屋敷に、医学部構内は旧岡藩屋敷に、薬学部と病院は旧会津藩屋敷に建てられたことがわかる。大名屋敷あっての京都大学であると言っても過言ではないだろう。

**【最新京都市街地図 1917年版では鴨東地区に多数の学校が直角に配列！】**

最新京都市街地図1917年版では、鴨東地区には京都帝国大学を頂点として多数の学校が直角に配列しています。横軸を左側へたどると、帝国大学（現・京都大学）→ 高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）→ 美術学校（現・京都市立芸術大学）と並び、縦軸を下側へたどると帝国大学（現・京都大学）→ 第三高等学校（現・京都大学総合人間学部）→ 医医科大学（現・京都大学医学部）→ 府立第一中学校（現・洛北高校）と並びます。維新後は閑古鳥が鳴いていた鴨東地区の変貌ぶりには目を見張るばかりです（図87）。



図87：最新京都市街地図  
1917年版（国際日本文化  
研究センター所蔵）に筆  
者が番号を付した。吉田  
山の西側に京都帝国大学  
①があり、南側へ第三高  
等学校②、京都府立第一  
中学校③(明治27年[1894  
年]に新町出水上ルから  
吉田近衛町へ移転)が続  
き、その西には医科大学  
④（後の京都大学医学  
部）、大学病院⑤（後の  
京大病院）、大学病院眼  
科部⑥（後の京大病院）  
がある。帝国大学の西側  
には高等工芸学校⑦（後

の京都工芸繊維大学）と美術学校⑧（後の京都市立芸術大学）がある。さらに鴨川西岸の荒神口付近には、府立病院⑨（後の府立医大病院）、医学校⑩（後の府立医科大学）、立命館大学⑪（旧広小路学舎）、第一高等女学校⑫（後の鴨沂高校）、第二高等女学校⑬がある。御所の北側には同志社大学（地図外）と同志社女学校⑭（後の同志社女子大学）がある。また薩摩藩京都屋敷と加賀藩屋敷があった岡崎地区には、平安神宮、府立図書館⑭、第一勸業館、第二勸業館、動物園があり文化ゾーンが形成されている。体育関係施設としては武徳殿⑮（今の京都市武道センター）と踏水会⑯も作られた。維新後は僻地と化していた鴨東地区とその周辺に多数の様々な文教施設と文化施設が集中し、ここに学生の街・京都の基盤が出来上がった。

その後京都帝国大学と第三高等学校以外の教育機関は、より広い場所を求めて他所へ移転していき、京都大学も宇治市黄檗に宇治キャンパスを設けて、一部機能が移転していきます。なお、現代では、マンモス化した大学の一部大学機能の郊外移転はよく行われており、同志社大学でも田辺キャンパスが、立命館大学でも草津キャンパスが増設されています。

なお、明治19年（1886年）に第三高等中学校の大阪から京都への移転が決まった時に、文部省は京都府へ移転先の広さを6万坪程度と指示しています（京都府会議事録）。森有礼文部大臣は、その理由を「今は必要なくとも将来に備えて広大な土地を確保しておくことが望ましい」と語っていたようで、森の先見性が見て取れるエピソードです。京大本部構内は49,000坪で、6万坪ではありませんが、それに匹敵する広大な敷地を有していることは間違いなく、その恩恵を京都大学は大いに受けてきました。

## 【第三高等中学校の本科と予科廃止による学生達の離散と折田彦市の深い悔悟】

明治20年（1887年）に、折田と入れ替わりに第三高等中学校長となっていた中島永元なかしまながもとが文部省に転出し、折田が第三高等中学校の校長に復帰することになりました。その年に第三高等中学校に本科（大学へ進学する者への予備教育をする学科）と予科（本科へ進む者への予備教育をする学科）が置かれ、さらに文部省の告示により高等中学校に医学部を置くこととなったことから岡山市の岡山県医学校を第三高等中学校に編入して第三高等中学校の分校（医学部）とし、翌年に開部式が行われました。そして、明治22年（1889年）に、第三高等中学校は京都・吉田（現・京都大学本部構内）へ移転しました。移転の翌年の明治23年（1890年）に法学部が置かれています。これは東京帝国大学に匹敵する大学を関西に設立することを睨んだ動きであったと目されています。

時が流れ、明治27年（1894年）に第三高等中学校は高等学校令により第三高等学校となりましたが、初代校長・折田彦市は将来に同校を大学へ昇格させることを狙っていたため、同校には本科と予科は置かれず、法学部・工学部・医学部（岡山県医学校を前身とする医学部のみ岡山にあった）の専門学科のみが置かれました。

これに伴い第三高等中学校の本科と予科は廃止となり、そこに所属していた学生は各地への離散を余儀なくされました。後に彦市は「親御さんから預かった大事なお子達を遠くへ追いやってしまったことは慚愧に堪えないことであった」と深く悔悟したそうです。

## 【いよいよ京都帝国大学の開学へ】

明治30年（1897年）に京都帝国大学が全国で二番目の帝国大学として京都に創設されることとなります。次のお話では、京都帝国大学開学とそれに続く立命館大学の創設を詳しくみていきますので、またお読みくださいね。

## 【追記】

安藤精軒のひ孫に当たられる加藤静允先生をお訪ねして直接にお話を伺ったところ、「精軒は昭憲皇太后（明治天皇の皇后）の生家である一条家の担当医師であり、昭憲皇太后の幼少期に種痘をして差し上げたというご縁があったことから、精軒の希望に配慮して第三高等中学校を京都へ移転してはどうかと畏こきあたりからのお声掛かりがあったのかも想像しています」とのことでした。もう140年近く前のお話ですし、話しの出処の加藤先生のお祖母様もお亡くなりになっており、それ以上のことはわからないそうです。

そのお話をお聞きして、懐の深い北垣国道のことやからきっとそんなご縁も使ったに違いない、と膝を打った筆者でした。

（第十三話へ続く）



## 七仏七界

### 西国四十九薬師霊場巡りの旅 その参 後編

#### 「師界」

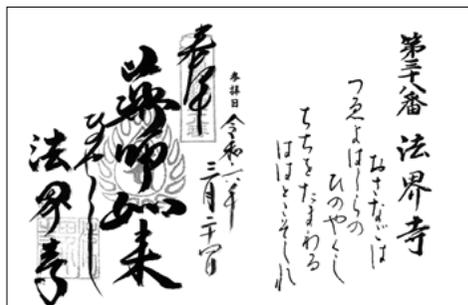
上高野班 松下 匡孝

2024年3月24日

先週に引き続いて2週連続のお参り。と、いっても伏見区の二寺をお参りするわけで、毎週金曜日に行っている病院の近くだから、小雨が降っているが3時間ほどで帰ってこれるだろう。

#### 第三十八番札所 真言宗 法界寺

伏見区日野にあり、納経バインダーを購入したお寺なのでお参りするのは2回目である。10時前に着いたが、お参りの方はどなたもおられず。受付が空だったのでチャイムを鳴らし、しばらく待つとお寺の方が出てこられた。阿弥陀堂の鍵を開けてくださり、前回同様阿弥陀様の説明をしていただく。折角なのでお経を唱えてから（間違っって薬師経を唱えたが…）お薬師さまのおられる薬師堂へ。お堂の中のお薬師さまは見えないが、写真が飾ってあった。読経の後納経所へ戻るとまたどなたもおられず、チャイムを鳴らしてしばし待つ。先ほどとは違う方が出てこられ、御宝印をいただいた。雨が木々の葉っぱに触れる音が聞こえるくらい静かだった。



#### 第三十九番札所 真言宗 醍醐派総本山 醍醐寺

法界寺から徒歩で醍醐寺に向かう。知らない土地をぶらぶら歩くのは楽しい。キョロキョロしていると不審者みたいだが、その土地の人々の生活を感じることができる。醍醐中学校の角を左折し旧奈良街道に入る。しばらく歩くと醍醐寺の総門に到着。総門をくぐり仁王門を入ると拝観券売り場があり、入山料はなんと1,500円もする。外国人の観光客

も多く、さすが世界文化遺産だ。観音霊場巡りでも訪れたが、大雪の翌日だったので准胝観音菩薩が祀られている観音堂は閉まっていた。お薬師さまのおられる金堂へ行くと金堂内は明るく中央に本尊の薬師如来座像が安置されている。参拝客が多いので通路の端に寄って読経を始めるが、納札を入れるところが見当たらない。読経を終え納経所へ向かう。納経所は観音堂にあるらしい。先に申込書に記入しておくみたいだが、バインダーを見せるとレジの方が申込書を書いて下さり、納経料300円を支払う。納札を入れるところを尋ねると「浄財を入れるところに入れてください。」と。金堂に戻って納札を投入した。「さぁ終わった。帰ろうか…」と拝見券を見ると三宝院庭園、霊宝館の入場券が残っている。「1,500円も払ったし、時間もあるから見に行くか…」と、三宝院へ。庭園を外から見る事はできるが、中に入るにはさらに入場料が必要。「庭はいいわ、霊宝館へ行こう。」三宝院を出てまっすぐ行ったところにある霊宝館へ。霊宝館はなかなか見応えがあった。天皇からの書状や、不動明王が展示されている。さらに国宝の薬師如来座像が安置されており、やはりここは薬師経と陀羅尼を唱えよう。係員の方に聞くと、醍醐寺にはお薬師さまは二体祀られており、金堂におられるのがご本尊だそうだ。かなり満足して醍醐寺をあとにした。

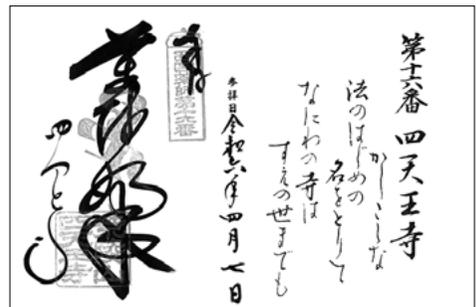


## 2024年4月7日

日曜日だというのに朝6時30分に目覚める。予定時間より1時間も早い、ゴソゴソしていると妻を起こしてしまった。妻は起きたんなら頑なに朝食を作ろうとするが、こっちとすれば早い目に家を出てモーニングを食べるから、休みなんだから寝ておいて欲しいのだが、高い確率で起こしてしまう。お参りに出る日曜日の早朝は毎回こんな感じだ。

## 第十六番札所 和宗総本山 醍醐荒陵山 四天王寺

守口市の大学に務めていた頃に、毎週平野区の喜連瓜破までバイトに行くため大阪地下鉄谷町線を使っていたが、途中に“四天王寺前夕陽ヶ丘”という駅がある。「かっこいい名前の駅だなあ。」とずっと気になっていたのに終ぞ降りることもなかったが、ついにこの駅に降り立つことになった。ホームの案内表示では4番出口が一番近いみたいだ。出口を出ると、谷町筋に



大学の同級生も多かった某有名進学高校が見えた。「ここにあったのかあ、すげえでかいなあ。」と感動しながら歩いていると、ほどなく四天王寺に到着。事前に知ってはいたが、

お薬師さまのおられる六時礼讃堂は補修工事中で壁に囲まれている。興福寺東金堂の時と同じく、正面の石舞台の前に立ち読経を始めた。静かに読経を終え、納経所へ。境内ではフリーマーケットが行われており混雑しているが、納経所は閑散。バインダーを見せ、お薬師さまの御宝印をいただく。納経所内に納札と浄財を納めるところが設置されていた。フリーマーケットをぶらぶら見ながら四天王寺を出る。

### 第十七番札所 真言宗国分寺派大本山 撰津國 國分寺

四天王寺前夕陽丘駅から谷町線に乗車し、東梅田駅を通過して天神橋筋六丁目駅で下車。日本一長いとされる天神橋筋商店街の北側の入口に位置する駅である。妻がこの商店街がお気に入りなので事前にお参りに誘っていたのだが、一緒に連れて行くつもり娘は私が出るときに爆睡中だったので断られてしまった。地下鉄ホームの案内表示には「長柄国分寺」と書かれている。



スマホのマップで國分寺の位置を確認し東へ歩き、二筋目を北へ上ると到着。655年に長柄寺が建立され、741年の聖武天皇の國分寺創建の発願により長柄寺を「撰津國國分寺」と定めたそうだ。大坂夏の陣や室戸台風などで被害を受け、大阪大空襲でほぼ焼失してしまったそうである。お薬師さまの祀られた金堂もコンクリート造りのようだ。読経をしてお参りをす。境内には昭和45年4月8日に起こった天六ガス爆発事故で亡くなられた方をお祀りしている鐘楼堂があり、明日が命日なのでお参りをしておく。納経所で御宝印を頂戴してお寺を辞した。

### 「瑠界」

さて時間は10時過ぎ。四天王寺、國分寺のお参りを終えたことで「師界」の七寺を廻り終えた。この「師界」は公共交通機関を利用したが、よくまあ色々起こるもんだと思う。次の「瑠界」は滋賀県に四寺、三重県に三寺で七仏七界前半の山場だ。滋賀県は自転車で廻る予定なのだが、湖南市にある善水寺は他の三寺から離れているので、今日のうちに善水寺を廻っておくことにした。最寄りのJR 草津線<sup>こうせい</sup>甲西駅までは、阪急千里線を使って淡路で乗り換えて高槻市駅で下車し、JR 高槻駅まで歩いて新快速を利用する方法が早そうだった。阪急高槻市駅から JR 高槻駅までは結構歩く。JR 高槻駅では京都線の乗車ホームを間違え、入線寸前に気づいて階段を駆け上がり、なんとか間に合った。草津駅に11時20分に到着。甲西駅から出ている湖国市巡回バスが数時間に1本しかないので、12時20分のバスに間に合う草津線の出発まであと30分、昼食の時間はある。草津はかなり人口も増えて都会になったので、駅近くに昼食を食べるところはいくらでもあるだろう。改札を出

てうどん屋、ベーカリーを通り過ぎエルティ草津という商業施設内にコメダ珈琲があった。ミックスサンド、ブレンドコーヒーを注文し、11時45分店を出る。57分、草津線に乗りして甲西駅に12時11分に着いた。予定通りのバスに乗り。250円の均一料金だ。岩根のバス停から善水寺まで徒歩10分だそうだが、「左 国宝本堂まで530M（西登山口）、右 国宝本堂まで600M（南登山口）」と看板が置いてあった。お寺参りなのに登山をしなければならない。左を選択。上って行くと山道と石段が続いている。この道は自転車では通れないな。暑いなか自転車を担いで石段を上った徳島県の白峯寺を思い出す。

#### 第四十七番札所 天台宗岩根山 醫王院 善水寺

山道の参道には“善水寺〇〇m”との案内看板が100mおきに立っており、終には“あとひといきです”と。“あとひといき”を上り切ると駐車場に出た。入山料600円を払って本堂へ。本堂ではお坊様が参拝者に善水寺の由来を説明しておられたので、終わるまで読経を待つ。説明が終わり、参拝者が引けたところで正面に座って読経を始める。扉が閉じられていてお薬師さまは見えないが、内陣に入ることができるので、読経が終わって十二神将や梵天、帝釈天、四天王、不動明王などの仏像を見学する。境内には井戸から汲み上げられる善水源水があり、空のペットボトルが100円で売られていたが、流れ落ちる水を両手で受けて一口いただくだけにする。入口の受付で御宝印をいただき、13時15分に善水寺を後にした。帰りのバスまでは1時間以上あるから、JRの駅まで3.5kmを歩いて行くことにしよう。甲西駅へ向かうより三雲駅の方が近そうだ。川沿いの桜を見ながらブラブラと歩き、14時に三雲駅に着いた丁度に草津行の電車が入ってきた。走る。



その四前編に続く



## 京の和菓子のことなど

第3 錦林班 渡 邊 和 朗

今年は早くから暑さがきびしく7月に入る前から早々と赤や白の百日紅や白に近いピンクで中心が赤、黄色いおしべの槿の花が咲き始めました。暑すぎるせいか、垣根や庭のアメリカアサガオに桔梗、いつも盛大に咲くキバナコスモスも元気がありません。土用に入り40℃近い最高気温の日中は真夏の空の下、人通りも絶え、蝉も鳴かず蝶や蜂やトンボの姿もなく鳥の声も聞こえない静まり返った中、まさに「沈黙の夏」です。60年以上前、レイチェル・カーソンという人の「沈黙の春」が出版されたとき「ヒステリー女」とか「性格異常者の感情論」などと特に大企業からの猛烈な人格攻撃があったようです。今、この本を読んでみると内容は全く妥当なもので、環境や消費者の健康よりも企業の利益を最優先しての攻撃だったのでしょうか。「化石賞」(聞くところによると環境対策に不熱心な国に贈られるそうです。)を何年も連続して受賞した日本は、「経済」と環境の両立とか「経済」を阻害しないようにとやらで大企業の利益を守るためには、温暖化の根本的な対策を行う気など全く無く、エアコンを使わずに熱中症になった人に対しあたかも落ち度があるような報道や、「躊躇なくエアコンを使いましょう。」キャンペーンが行われています。「経済」とやら以外は環境も人々の生活も健康も全く眼中に無いのでしょうか。エアコンの恩恵にあずかれない人もいます。

今では夏と冬だけのような極端な気候になってしまいましたが、日本にはかつて四季の変化がはっきりあって、それを愛でる文化がありました。京の和菓子はそのような日本の文化と茶の湯の影響のもとで季節のお菓子をたくさん生み出してきました。その中に「葛焼き」という夏のお菓子があります。本葛、餡、砂糖などを混ぜ合わせ、型に入れて固めたのを直方体に切り分けて上新粉をまぶしてから六面を軽く焼いたお菓子です。機械による大量生産には向かないので原則、手作りです。鮮度が大切なので予約しなければなりません。2～3日は保つとは言いますが翌日は微妙に味が変わり、当日に食べるのが基本です。以前、秋の猪子餅を買った祇園にあるお店の付近は観光客がひしめいているので敬遠して他のお店に注文することにしました。茶道のたしなみがあって和菓子に詳しい妻が電話で注文して品物を買に行くことになります。和菓子屋さんには電話をすると作っていないというお店もありました。大丸の近所の和菓子屋さんにとずねると、電話口で店のおかみさんが「ご進物ですか、おうちで食べられますか。」と言います。「家で食べます。」と言うと「箱代は高いのでタッパーを持って来ていただいたら、それにお入れします。」となかなか良心的です。主菓子と対になるお干菓子のほかに浜土産(「はまづと」と

読みます。竹籠の中に蛤の貝殻が何個か松葉に包まれて入っています。蛤の貝殻に錦玉がぎっしりと詰めてあり、中に一粒入っている味噌納豆が味を引き締めています。錦玉というのは寒天や本葛と砂糖を練り合わせ固めた物です。二枚の貝殻の一方をスプーンのように使って食べます。)を買いました。洋菓子のどぎつい味にくらべると自然な優しい甘さです。私は子供のころから、あまりお菓子を食べなかったのですが、妻の薫陶を受け和菓子が好きになりました。和菓子は味が優しく、見た目も風情があります。お正月の花びら餅、春のうぐいす餅、祇園祭の頃の稚児餅、夏の錦玉、秋の猪子餅(源氏物語に猪子餅の名前が出ています。)など季節季節のお菓子があって、お茶とお菓子をいただきながら夏の清流の蜚や水藻、早春の梅の花などを思い浮かべるのも一興です。子供のころ近所の和菓子屋さんに工芸菓子がよく飾られていました。その精巧な作りになんと眺めていた記憶があります。草花や鉢植えの盆栽、花鳥風月などの題材を砂糖菓子で作ったものです。形を整えるために針金や木の芯を使うのは邪道とされています。お菓子の材料だけで作られた超絶技巧の工芸品です。超絶技巧といえれば10年ほど前に、後継者が絶えて廃業した井筒屋重久に如心松葉というお菓子がありました。そば粉、けし、肉桂、和三盆をこね合わせ細くのぼしたものを根元を残して細く2本に切り分け松葉の形に整えて作るという曲芸のようなお菓子で350年間一子相伝で作られてきたそうです。表千家七世家元如心齋が松葉と名付け、表さんでよく使われていたと聞きます。今や幻の名菓となってしまいました。近年、京都の老舗和菓子屋さんも大きな工場でお菓子を作るようになってきています。子供のころ近所にあった三条若狭屋さんもお店の奥でお菓子を作っていたのが、今では近代的な工場でお菓子を作っているようです。お中元に和菓子の詰め合わせをもらおうと錦玉羹が入っていることが多いのですが、あるとき、お中元にもらった老舗和菓子店の錦玉羹を食べるとどうも違和感があります。原材料を見ると錦玉羹に似せた、ただのゼリーでした。伝統を墨守するだけでなく、時代の嗜好に合わせて生き残ることや原材料の供給、製造の経費(コスト)の制約、全国多くの消費者に大量に供給するためという面もあるのでしょうか。繊細な味の和菓子は大企業のお菓子メーカーのどぎつい味のお菓子に慣れた現代人には不人気なのか、洋菓子も作る和菓子屋さんが増えました。実は京都の和菓子屋さんは何百年も前からの伝統を守ってお菓子を作ってきた一方、明治維新後、時代の変化にあわせていろいろ工夫して新しい製品を多く作り出してきました。今、京の和菓子として老舗和菓子店で売られているものの多くは明治維新以降に開発されたものです。太平洋戦争後に誕生したものも、もう何百年も前からのお菓子のような顔をしていて、現在でも新しいお菓子の開発は続けられています。京の和菓子はその歴史から見るとむしろ革新的です。その反面、手作りの繊細な味の零細な個人経営の和菓子屋さんは姿を消しつつあるのも残念なことです。毎年、お墓参りの帰りに草餅を買う富山県砺波のお餅屋さんの草餅は原材料表示によると、もち米、小豆、砂糖、よもぎだけで餅の中によもぎの繊維が見えます。食べると草の香りがします。当日の朝、妻が注文の電話をかけると「郵送もするから。」と言われたことがあります。「ついでがあるから買いに行きます。」と妻が電話で答えると「フーン、つきたてのホチャホチャのが食べたいのやろ。」と納得した様子です。お店ではおかみさん

と妻が富山の言葉でよもやま話になります。帰りの車の中と帰宅した夕方に食べるのが最高で次の日には微妙に味が変わります。幸いにもそのお店は息子さんが跡を継いで当分は安泰です。今年、漬物屋さんでも衛生基準が厳しくなり高価な設備を導入しなければならないと言われていて、町の手作りの漬物屋さんの廃業が増えるのではと心配されています。本物のすぐきなども姿を消し、大メーカーの薬臭い漬物が幅を利かすのでしょうか。中小企業潰しの意図ではと勘ぐりたくなります。息子が島田市民病院に勤務していたときに、帰省時、いつも買って来てくれた梅干しは原材料の表示を見ると食塩、赤紫蘇、梅の実だけ、実に潔いものです。味も潔く、楽しみにしていました。和菓子屋さんに限らず伝統産業、伝統工芸は中小企業や零細な個人経営が多く、苦勞のわりに収入は少ない上に、行政の対応も無関心・冷淡で後継者もなく衰退の一途です。高層ビルのオフィスでスーツをバリッと着てどうでも良い仕事をさも忙しそうに、重大事のようにすることが若い人たちの憧れの的なのでしょう。就活で人気の職種はそういう職種です。診療所に時々訪ねて来る詐欺師のセールスマンも似たような話し方と恰好をしています。

中小企業への行政の対応は京都アニメーション放火事件の犠牲者の慰霊碑除幕式には京都府知事も京都市長も参列しなかったことに如実に表れています。事件の起こった当時も京都市長の対応は冷淡なものでした。京都ならではの他にはない産業で、大切に育てれば京都を支える産業になったと思われませんが、凡百の製品を作る大企業のほうが彼等には大切なのでしょう。今の京都府知事は京大の石垣に並んでいた学生たちによる立て看板を見苦しいと言って撤去させた人物と噂されています。公平に見ればむしろオリジナリティーにあふれ、芸術的なものも多く、市内にあふれる商業看板の方がはるかに陳腐・俗悪で見苦しいと言えます。本当に創造的な事柄は混沌の中から生まれるのです。マスコミの報道によると撤去命令は京都府警によるものと聞いています。そうすると最終責任者は京都府知事です。これはかなり話題になった事柄で知事が聞き及んでいないことはあり得ません。こういう輩は権力者や大企業の利益だけに関心があり、「経済」「経済」と言っていますが、彼等には府民や市民は全く眼中になく、「経済」とは権力者や大企業の懐を肥やすことを言っているのでしょう。

#### 写真出典

fig.1, fig.3, fig.4, fig.5, fig.7, fig.8, fig.9 「京の和菓子」 岩城もと子 1978

fig.2 「京の店」 岩城もと子 1976

fig.6, fig.10 「続 京の味」 岩城もと子 1971

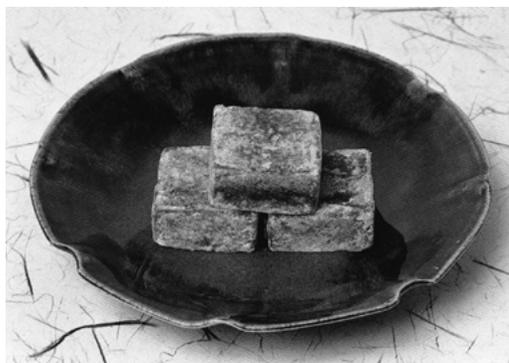


fig.1 葛焼



fig.2 浜土産

いかにも潮干狩りのお土産という趣向です。



fig.3 お干菓子各種



fig.4 花びら餅

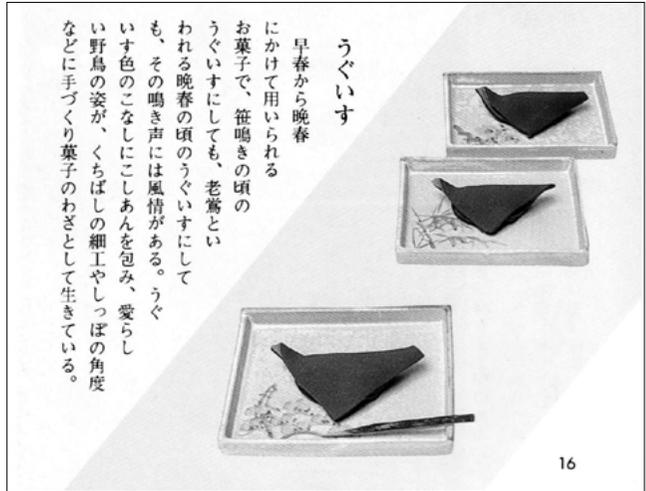


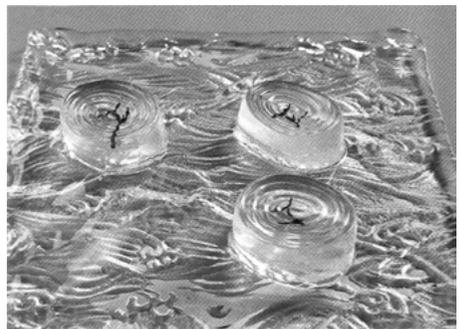
fig.5 うぐいす餅



fig.6 稚児餅

fig.7 錦玉のお菓子

透明な錦玉の中にジュンサイを入れて川の水藻の風情があります。お皿もガラスで涼しさを演出しています。



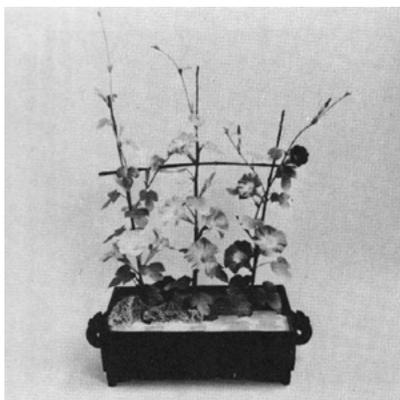


fig.8 工芸菓子 銘「朝顔」  
針金の芯なしで朝顔の蔓が作られています。



fig.9 工芸菓子 銘「樹氷」  
木の根元を狐が歩いているのがご愛敬です。



fig.10 如心松葉  
折れやすい細いお菓子を根元を残して切り分ける超絶技巧です。



fig.11 砺波のチューリップ畑  
畝で花のない部分は球根を太らせるために摘み取ったためです。遠くに屋敷森がいくつか見える散居村です。(数年前に撮影した風景です。)

## 編 集 後 記

皆様どのような夏をお過ごしになりましたか？

南海トラフ巨大地震注意喚起、Covid-19や手足口病、マイコプラズマ肺炎の流行、お米の不足など、懸案事項の多い夏でしたが、そんななか、快音を響かせてくれたのが京都国際高校ナインでした。夏の甲子園初優勝おめでとうございます。地球温暖化の昨今、灼熱の甲子園球場昼間開催の危険性が議論されています。選手達の安全を何より願いますが、高校球児の皆さんにとっては、聖地「甲子園」の尊さは何にも代えがたいものなのでしょう。球場を変更することなく朝と夕に実施してはどうでしょうか？素人考えでしょうか？

今夏の懸案事項といえば、毎年恒例になりつつあるお盆期間の台風による交通混乱もありました。昨年は長崎県五島列島で台風直撃に遭った私、今年は静岡県熱海で台風7号の最接近にであいました。きっと来年も、私の行くところに台風は現れるのでしょうか、とほほ。

医報担当 兵庫美砂子

## ホームページコーナー

URL <https://www.sakyo.kyoto.med.or.jp>

左京医師会では、ホームページを開設しております。皆様のアクセスをお待ちしております。また会員メーリングリストの運営を行っていますので、参加ご希望の方は医師会事務所までご連絡ください。 情報広報委員会

## 左京医報投稿のお願い

原稿締切 毎月 15 日  
発行 翌月初旬(合併号はこの限りではありません)  
内容 随筆・感想文・旅行記などを募集しております。また、表紙に絵画・書・写真などを左京医報へ掲載していただける先生がおられましたら、お気軽に事務所か兵庫美砂子までご連絡をお願いします。

### 左京医報 2024年9月号(701号)

発行日	2024年(令和6年)9月1日	発行人	塩見 聡 史
発行所	一般社団法人 左京医師会	編集人	兵庫 美砂子
	京都市左京区岩倉大鷲町422番地	印刷所	(株)こだま印刷所
	電話 (075) 701-1500		電話 (075) 841-0052
	FAX (075) 701-1751		FAX (075) 811-7873
	E-mail <a href="mailto:info@sakyo.kyoto.med.or.jp">info@sakyo.kyoto.med.or.jp</a>		E-mail <a href="mailto:mail@kodamap.co.jp">mail@kodamap.co.jp</a>